

2026年3月期 中間期決算 及び経営活動の現況

2025年11月5日
株式会社 東京エネシス

Q'd

株式会社 東京エネシス

I 2026年3月期中間期決算の概要

II 企業価値向上に向けた取り組み

III トピックス

2026年3月期中間期決算の概要(連結経営成績)

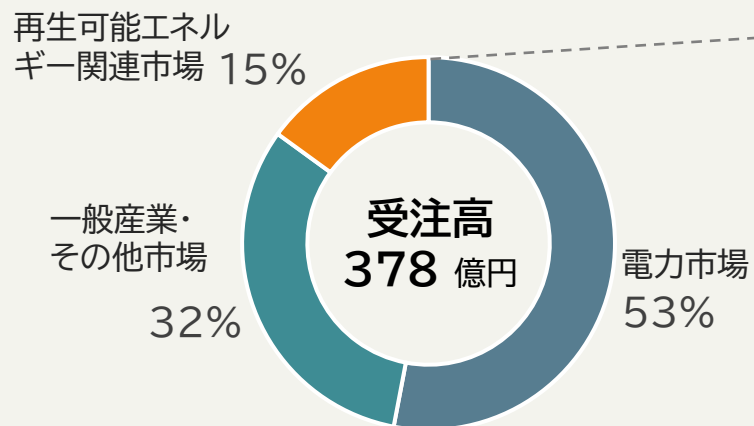
(単位:百万円)	FY2024 中間期	FY2025 中間期	増減比率	ポイント
受注高	37,827	51,543	36.3%	<ul style="list-style-type: none"> 脱炭素化や省エネを目的とした設備投資が旺盛な一般産業・その他市場、再生可能エネルギー関連市場が牽引し、受注高・手持工事高ともに大幅に増加 受注高・手持工事高ともに過去最高を更新
手持工事高	104,962	138,681	32.1%	
売上高	30,541	34,283	12.3%	<ul style="list-style-type: none"> 一般産業・その他市場が大幅に増加
営業利益	▲249	1,180	—	<ul style="list-style-type: none"> 前期から継続的に取り組んでいる採算性を重視した受注活動や不適合・不採算工事の減少により利益率改善
経常利益	243	1,391	470.7%	<ul style="list-style-type: none"> 営業利益の増加に加え、為替変動による為替差益を計上
親会社株主に帰属する 中間純利益	630	1,489	136.3%	<ul style="list-style-type: none"> 資産の効率化に向けた賃貸不動産や政策保有株式の売却による特別利益を計上

過去最高

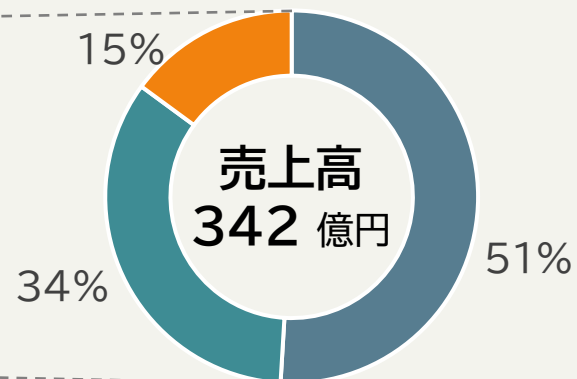
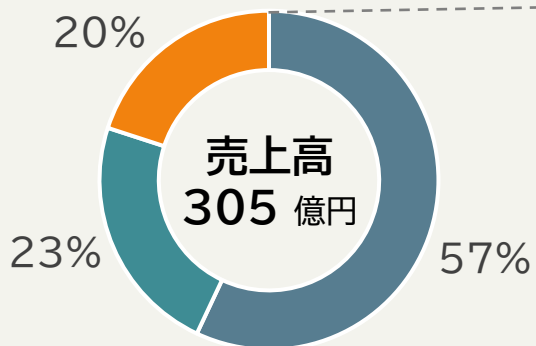
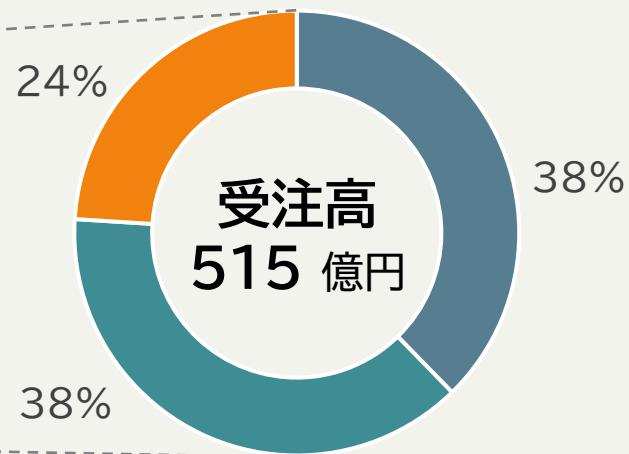
市場別の受注高・売上高について

受注高：電力市場(▲15P)、一般産業・その他市場(+6P)、再生可能エネルギー関連市場(+9P)
 売上高：電力市場(▲6P)、一般産業・その他市場(+11P)、再生可能エネルギー関連市場(▲5P)

FY2024 中間期実績



FY2025 中間期実績



市場別の受注高・売上高について

電力市場

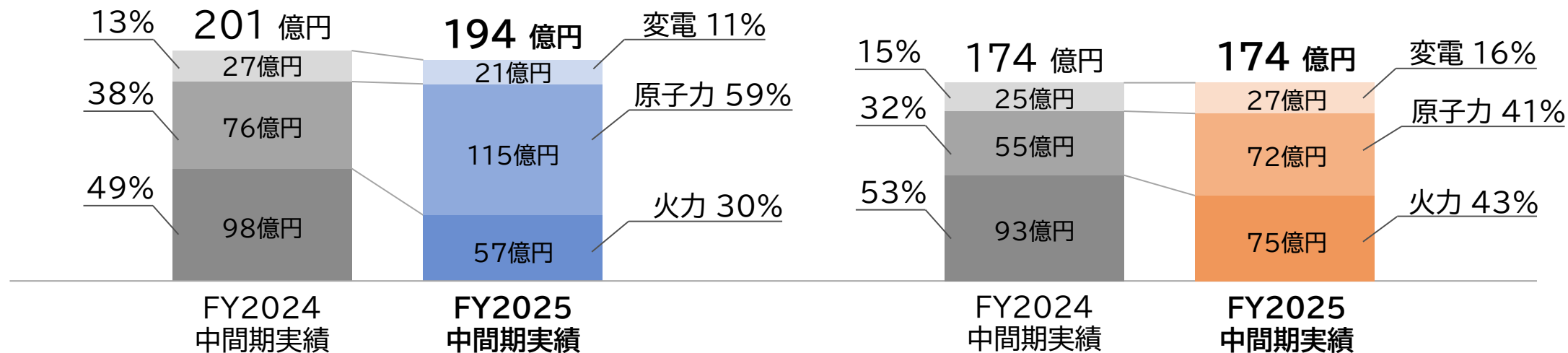
【受注】 火力分野は減少したものの、原子力分野は原子力設備の安全対策工事や福島第一原子力発電所廃止措置関連業務などにより大幅に増加、変電分野は前期比同水準、電力市場全体では前期比微減。

【売上】 火力分野は建設工事が減少、原子力分野は福島第一原子力発電所廃止措置関連業務などにより増加、変電分野は設備新設・増設工事の対応により堅調、電力市場全体では前期比同水準。

中間期実績

受注高

売上高

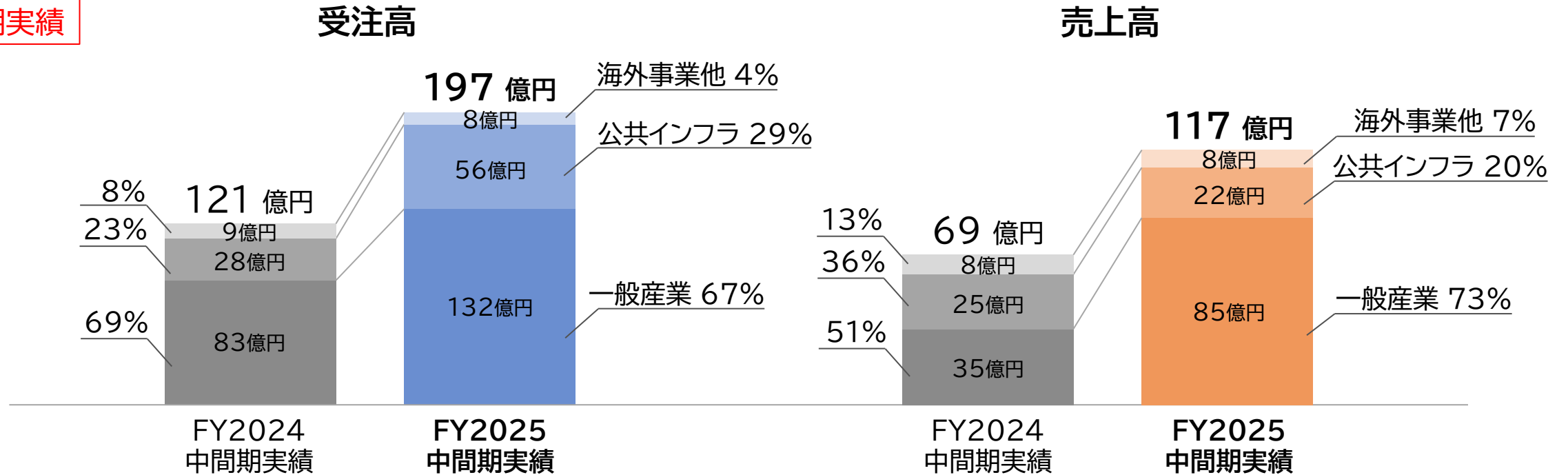


市場別の受注高・売上高について

一般産業・その他市場

【受注】 脱炭素化に向けた製鉄所電気炉関連工事、工場の発電設備保守工事、照明のLED化を始めとした公共施設の電気設備工事など、全国の支店を活用した展開により、一般産業・その他市場では前年度に引き続き大幅に増加。
【売上】 蓄電池関連プラント建設工事、製油所保守工事、化学工場の発電設備新設工事などの手持工事が順調に進捗し、前期比で大幅に増加。

中間期実績



市場別の受注高・売上高について

再生可能エネルギー関連市場

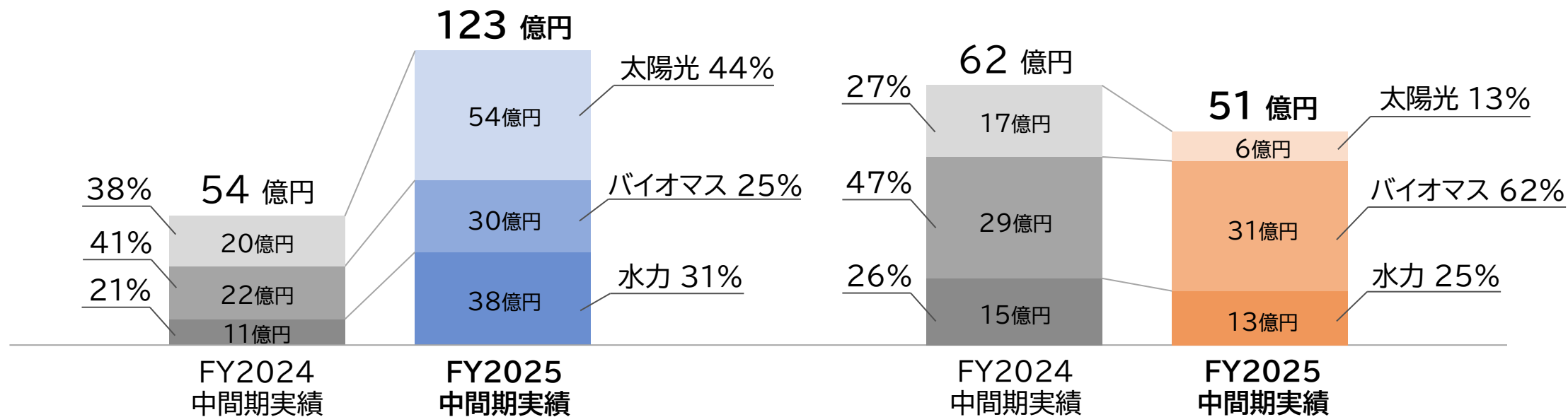
【受注】 太陽光分野ではDXによる効率的施工管理を実現し獲得したオンサイトPPA電源設備工事、水力分野では公営水力発電設備更新工事の貢献などにより、再生可能エネルギー関連市場では約2.3倍に拡大。

【売上】 前年度の採算性を重視した受注活動や、地域事情・物価高騰による工程遅延などが影響し、前期比減少。通期では、オンサイトPPA電源設備工事の進捗により回復する見込み。

中間期実績

受注高

売上高



I 2026年3月期中間期決算の概要

II 企業価値向上に向けた取り組み

III トピックス

企業価値向上に向けた取り組み(『人』を真ん中にした投資サイクル)



企業価値向上に向けた取り組み(人的資本強化;根と幹)

人財の成長である根を強く張るため、量的強化として処遇改善や社内コミュニケーション活動を、質的強化としてスキルアップ研修や資格取得支援を実施、2024年度は約**9億円**、2025年度は約**12億円**を投資
 また、幹を太くするため、DX投資や研究開発投資などによる「Q'd」の磨きこみや、協力会社との連携拡大に向けたプロジェクトの設置などによるつながり強化にも取り組む

1

根

人財への投資による
人的資本の強化

2

幹

お客さまに選ばれるための
「Q'd」の磨きこみ

3

幹

当社に関わるすべての
人・組織とのつながり強化

取り組み一覧

量的強化

- **エンゲージメント向上(離職率改善)**
 - **ベースアップを含む社員の処遇改善**
 - **単身赴任手当の充実**
 - **タウンホールミーティングの開催**
 - **全社スポーツイベントの開催**
 - **全社員を対象としたガン検査**
 - **キャリアデザイン研修(New)**
 - **ホームタウン手当の新設(New)**
 - **若手社員へのフォローアップ充実(New)**
- **採用強化**
- **利益率の高い分野への要員再配分**
- **経験豊富な協力会社の確保・拡大(PJ)**

- **地域事情やお客さまに精通した経験者採用**
- **DXによる現場施工の効率化・省力化**
- **お客さまへの技術提案による現場施工の省力化**
- **常駐拠点化に必要な環境整備**

進捗率・**70%以上**

• **30%以上70%未満**

• **30%未満**

(PJ):プロジェクトを設置し対応

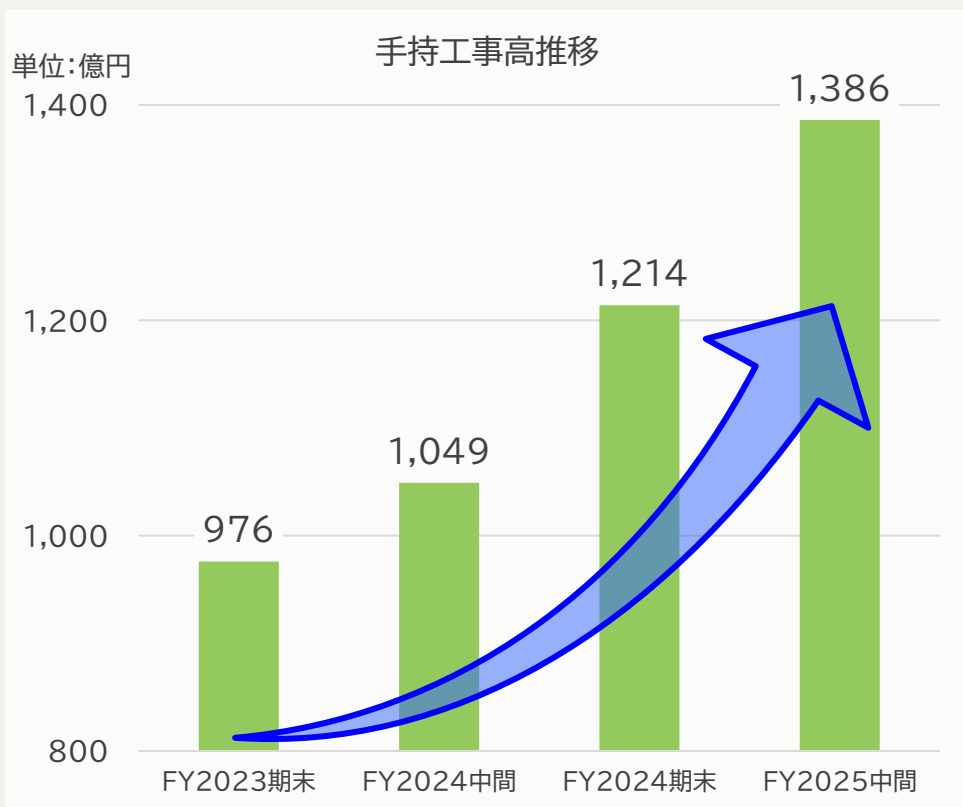
- **必要資格取得の推進のための外部機関活用や全社タスク設置(PJ)**
- **OJTノート標準化による若手社員の早期育成(PJ)**
- **技術習得のためのメーカーなどへの出向・派遣**
- **耐震解析技術の高度化**
- **新設した溶接技術管理者認定制度の職種拡大(PJ)**
- **自社発電所活用教育施設の整備(PJ)**
- **協力会社社員の育成支援(PJ)**

質的強化

企業価値向上に向けた取り組み(人的資本強化;枝・葉と果実)

2024年度期首から人的資本強化に注力してきたことで受注を確実に伸ばし、手持工事高は2023年度期末976億円から2025年度中間期1,386億円となり、1.4倍に増加、過去最高を更新。また、採算性を重視した受注活動により利益率は回復、3つの利益戦略により利益を上積みし、2027年度ROE 8.0%達成を目指す。

枝・葉 | 受注



果実 | 利益

市場シェアの拡大 (原子力・変電・水力)

常駐拠点数拡大 (火力・原子力・一般産業)

不適合・不採算工事の撲滅 (全分野)

**FY2027
ROE 8.0%**

これまでの成果	今後の取り組み
<ul style="list-style-type: none"> 品質ゲート構築による不適合の減少 積算に特化した組織を新設したことによる不採算案件の減少 広域安全対策専門組織を新設し、様々な原子力発電所の安全対策工事に対応 変電工事を新設し、データセンターの電力需要増加に伴う変電設備の新增設に対応 	<ul style="list-style-type: none"> 品質保証部が実施するQMS内部監査により不適合撲滅 原子力発電所安全対策工事のさらなるシェア拡大と常駐化 データセンターの電力需要増加に伴う変電設備の新設・増設工事のシェア拡大 水力分野のS&Bを中心とした全国シェア拡大 火力・一般産業の常駐拠点数拡大

営業活動の市場マップ(原子力分野、変電分野)

[原子力分野]

・沸騰水型原子力発電所の再稼働に向けた安全対策工事が本格化する
ユニットが増加、再稼働後のプラントは順次定期検査時期が到来

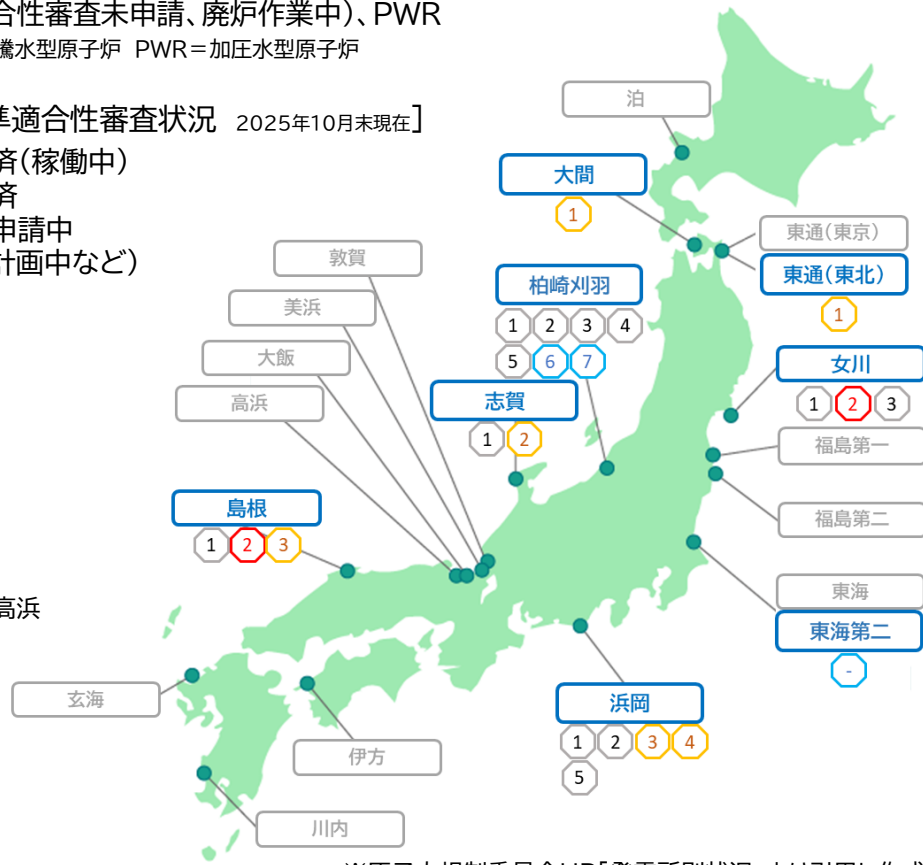
- BWR(新規制基準適合性審査 申請済)
 - BWR(適合性審査未申請、廃炉作業中)、PWR
- ※BWR=沸騰水型原子炉 PWR=加圧水型原子炉

[(BWR)新規制基準適合性審査状況 2025年10月末現在]

- 設置変更許可済(稼働中)
- 設置変更許可済
- 設置変更許可申請中
- その他(廃炉・計画中など)

【電力会社】

- 北海道: 泊
- 東北: 女川・東通
- 東京: 柏崎刈羽
[東通]
(福島第一)
(福島第二)
- 北陸: 志賀
- 中部: 浜岡
- 関西: 美浜・大飯・高浜
- 中国: 島根
- 四国: 伊方
- 九州: 玄海・川内
- 日本原子力発電:
東海第二・敦賀
- 電源開発: 大間



※[]計画
()廃炉作業中

※原子力規制委員会HP「発電所別状況」より引用し作成

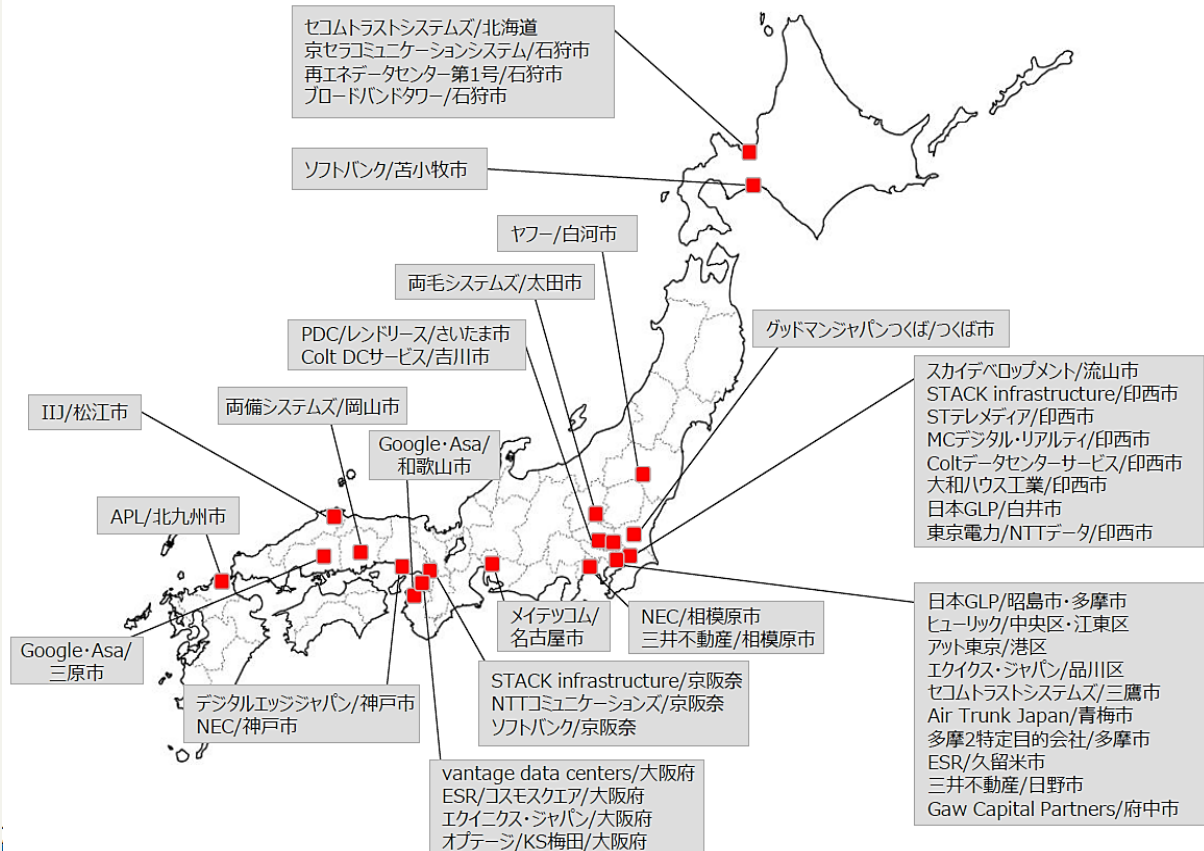
[変電分野]

・データセンター新設による電力需要増加などへの対応として、関東エリアを中心に変電所設備新設・増設工事などで活況

2024年以降のデータセンターの新設計画

※コテナ型データセンターなど、小規模のものや増床案件は除く

※総務省「デジタルインフラ(DC等)整備に関する有識者会合 第7回事務局説明資料」より引用

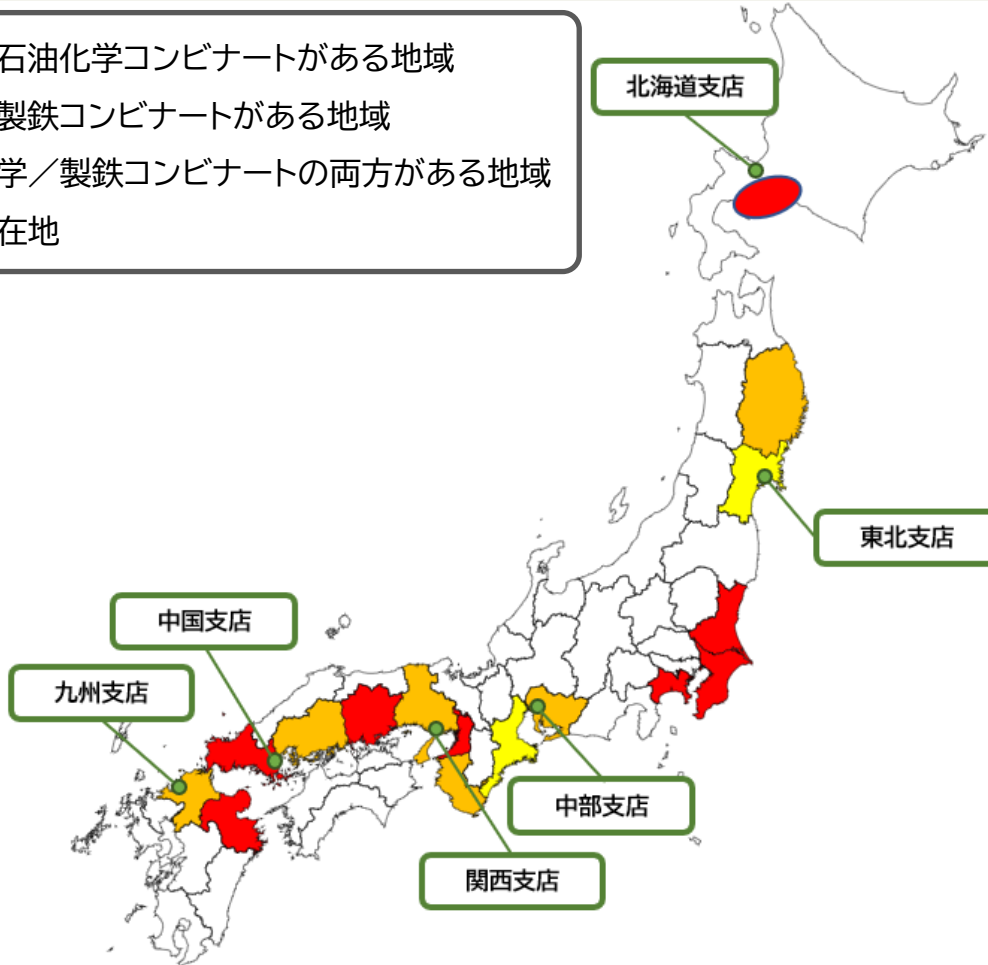


営業活動の市場マップ(一般産業分野、水力分野)

【一般産業分野】

- 製鉄所、製油所、化学工場など、脱炭素化や省エネを目的とした設備投資は引き続き堅調

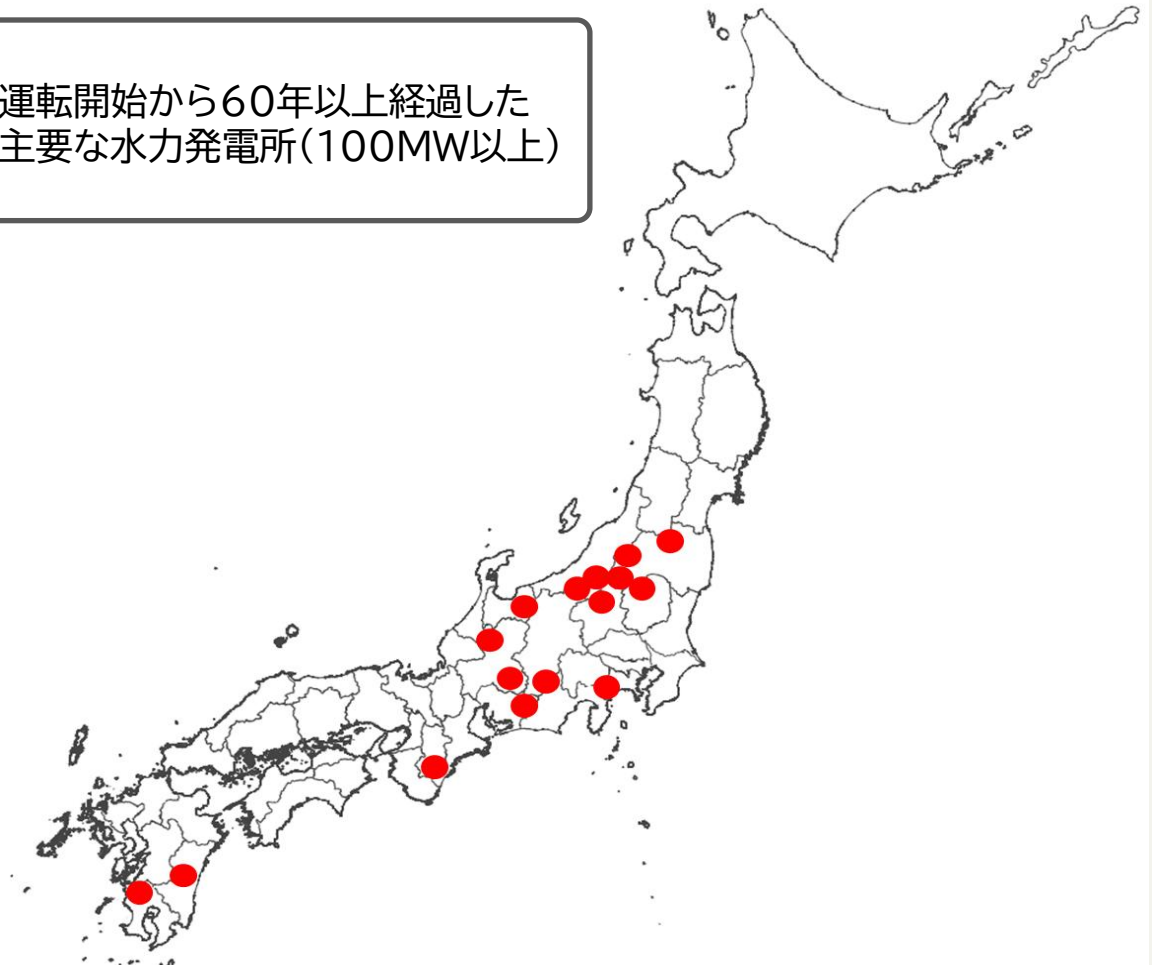
- 主要な石油化学コンビナートがある地域
- 主要な製鉄コンビナートがある地域
- 石油化学／製鉄コンビナートの両方がある地域
- 支店所在地



【水力分野】

- 電力会社・公営水力いずれもS&Bなど既存プラントの更新継続により堅調

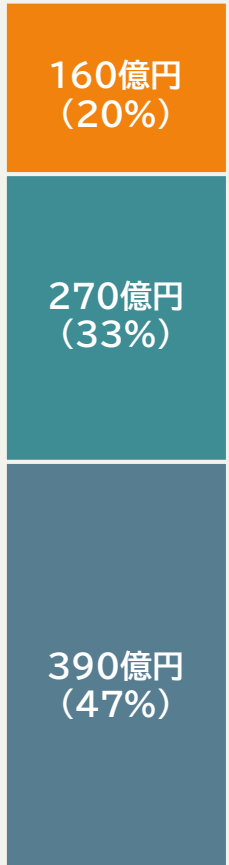
運転開始から60年以上経過した
主要な水力発電所(100MW以上)



2026年3月期連結業績予想

FY2025計画
(5月公表時)

売上高
820 億円



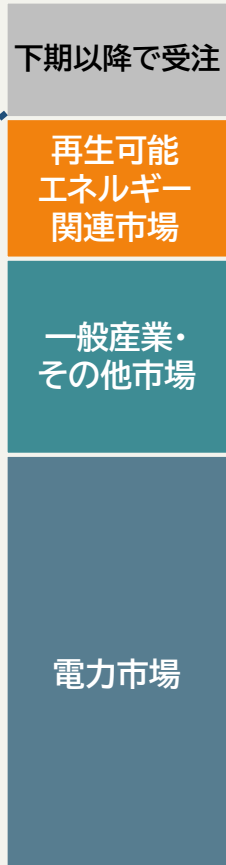
FY2024実績
(昨年中間期時点)

売上高
677 億円



FY2025予想
(現時点)

売上高
820 億円



下期以降受注が必要な工事高 (110億円)

- ▶ 当期売上高予想に含む未受注割合は前年と比較して減少したものの、計画値達成に向けて受注活動や工程管理のより一層の強化が必要

上期売上高実績と中間期末時点手持工事高の 下期売上高想定の合計 (710億円)

- ▶ 前期からの好調な受注継続により、前年同期と比較して、既に受注している案件の当期売上高は大幅に増加

I 2025年度中間期決算の概要

II 企業価値向上に向けた取り組み

III トピックス

トピックス

- 【原子力】BWR型原子力発電所の安全対策工事の受注～実績・経験・技術を展開～（その1～3）
- 【変電】伸びる変電設備需要 ～AI普及・DC新增設による電力需要増加に対する送電網強靱化対応～
- 【原子力】福島第一の水処理 ～ALPS(多核種除去設備)処理水の希釈放出設備設置と保守管理～
- 【水力】堅調な水力発電設備需要 ～優れた技術力を有し、国内各所の水力発電設備に対応～
- 【バイオマス】境港バイオマス発電所 ～マザープラントとして様々な事業の源に～
- 【バイオガス】熊本でバイオガス発電事業を展開 ～2029年度運開予定、現地工事開始～
- 【技術力】溶接・検査センター ～技術を磨いて千葉県大会優勝、全国大会に出場～
- 【人材育成】洋上研修を開催 ～大島商船高等専門学校の協力を得て洋上研修を実施～
- 【復興支援】福島県双葉郡川内村のワイナリーを支援 ～ブドウ収穫作業に参加～
- 【ダイバーシティ】外国籍社員が活躍～ダイバーシティ&インクルージョン
- 【ダイバーシティ】5名のパラアスリートが所属～ダイバーシティ&インクルージョン～

Q'd

株式会社 東京エネシス

【原子力】BWR型原子力発電所の安全対策工事の受注～実績・経験・技術を展開～（その1）

- 当社は、東京電力様柏崎刈羽原子力発電所6・7号機から新規規制基準安全対策工事(火災防護関係)に参画をし、東北電力様女川2号機を完遂させ、中国電力様島根2号機、北陸電力様志賀2号機に取り組んでいる。
- 現在は、安全対策工事計画中のBWR型原子力発電所に事業を拡大中。
- 安全対策施工後は、安全対策設備の点検はもとより、発電所設備機器点検も視野に入れ常駐化を目指す。
- 現状、東北電力様女川原子力発電所、北陸電力様志賀原子力発電所の常駐化を実現、各種機器点検を開始。

【東京電力】 柏崎刈羽原子力発電所 6, 7号機 安全対策工事(実施済み) <常駐:39名>

【東北電力】 女川原子力発電所 2号機 安全対策工事(実施済み) <常駐:6名>

ガス消火設備設置



東京電力ホールディングス様
柏崎刈羽原子力発電所6, 7号機



東北電力様
女川原子力発電所2号機

【原子力】BWR型原子力発電所の安全対策工事の受注～実績・経験・技術を展開～（その2）

【北陸電力】志賀原子力発電所 安全対策工事準備業務(実施中)と設備機器点検 <常駐:8名>



志賀工事事務所新設(2025.09)



ガス消火設備設置耐震評価 写真:北陸電力様提供



非常用ディーゼル発電機点検(常駐化実績) 写真:北陸電力様提供

【原子力】BWR型原子力発電所の安全対策工事の受注～実績・経験・技術を展開～（その3）

【日本原電】 東海第二原子力発電所(実施中) <常駐:59名>



低圧タービン解放

写真:日本原電様提供

原子力における常駐現場は8箇所(※)で現場に於ける経験を活かし、引き続き、常駐現場の数を増やす努力をする。

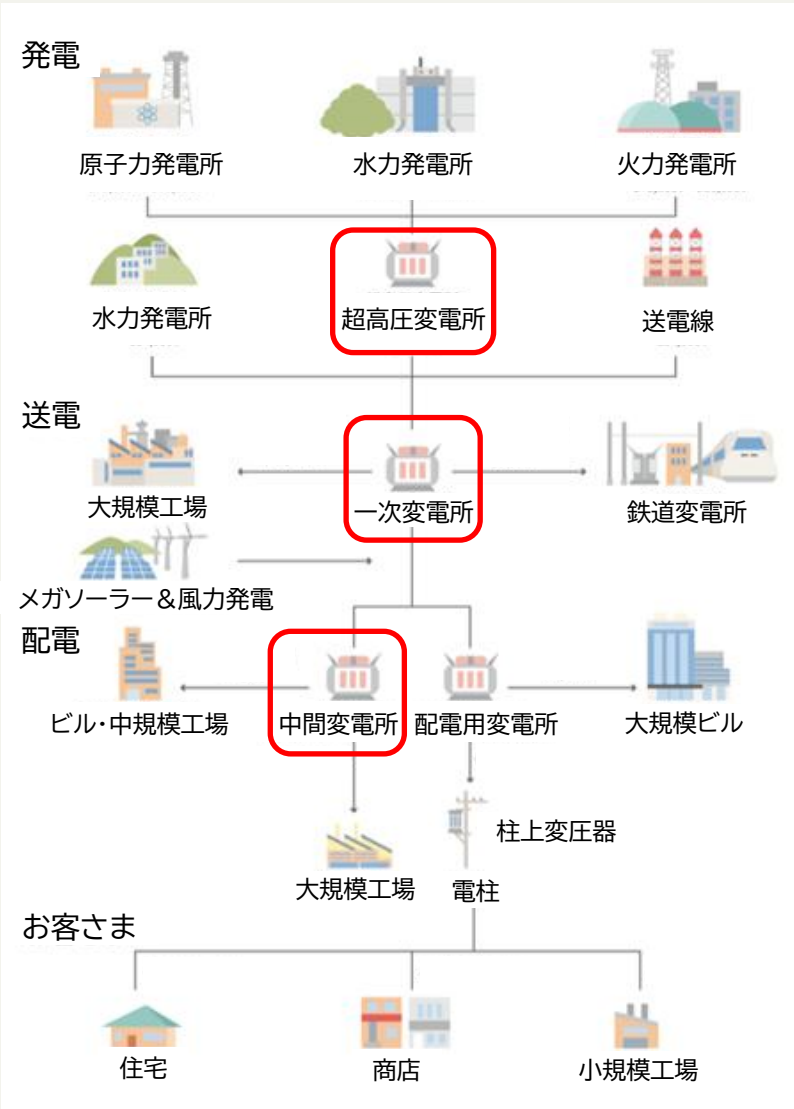
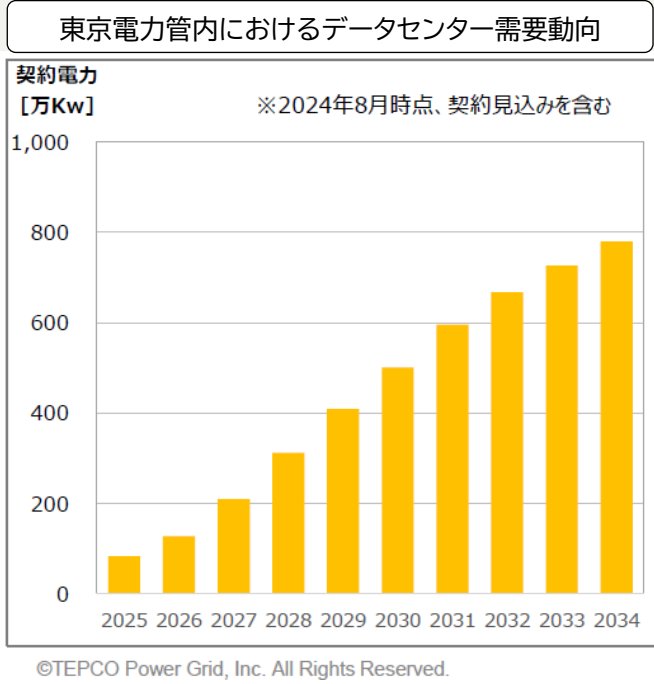
※福島復興第一現業所、福島復興第二現業所、東海現業所、新潟支社、志賀工事事務所、青森支社、むつ工事事務所、女川工事事務所



循環水ポンプ据付

【変電】伸びる変電設備需要 ～AI普及・DC新增設による電力需要増加に対する送電網強靱化対応～

- 近年急速に拡大するAIの普及やデジタル化の進展に伴うデータセンター等の新設・増設やGXの加速により、電力需要が益々増加することが見込まれ、これらを受けた電力供給網の強靱化のための変電所新設・増設ニーズが高まっている。
- 関東近傍における電力供給の起点となる超高圧変電所の増設工事、周辺地域への送電の中継点となる変電所の新設・増設工事ならびに民間工場等の特別高圧受変電設備工事等を受注し、売上高としては、FY2024・2Qで23億円、FY2025・2Qで28億円であり、引き続き堅調な伸びが見込まれる。



【原子力】福島第一の水処理～ALPS(多核種除去設備)処理水の希釈放出設備設置と保守管理～

- 当社は、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉作業に於いて、これまでの経験と知見、技術力を発揮している。
- 特に、水処理関連の分野では、ALPS(多核種除去設備)処理水を希釈放出する設備の設置に携わり、現在は設備の保守管理に携わっている。
- この他にも、サブドレン移送設備や既存設備の保守管理等に取り組む。
- これらの作業を、確実に行うことが出来る私共の強みは、厳しい法規制、高い安全・品質面での要求、工期短縮要請へ応え続けてきた確かな実績に基づく施工マネジメント人材、施工ツール、そして核となる基幹協力会社の存在。
- 私たちは、引き続き、様々な現場で強みを発揮していく。



写真:東京電力ホールディングス様提供

【水力】堅調な水力発電設備需要 ～優れた技術力を有し、国内各所の水力発電設備に対応～

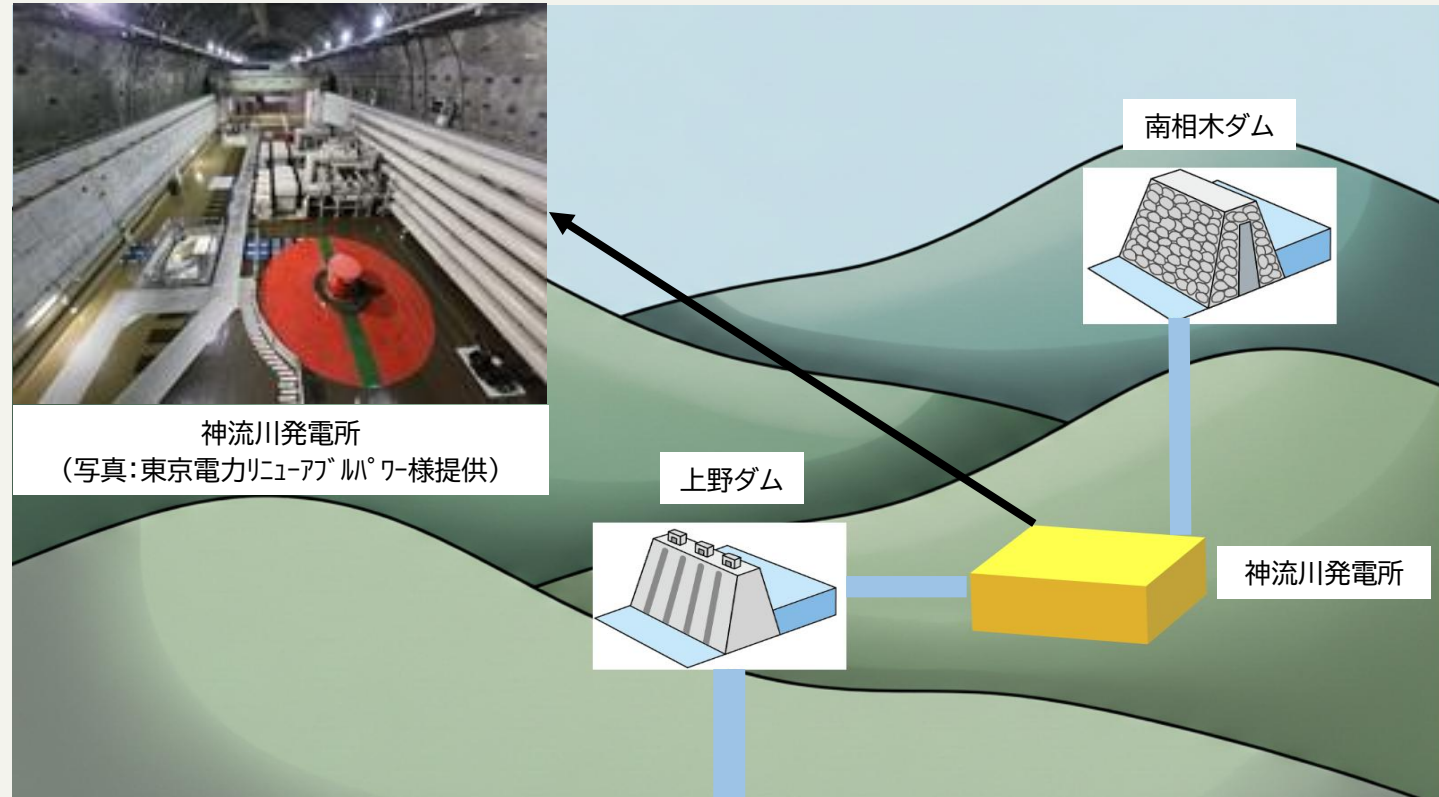
- 当社は、創業以来、水力発電所の建設・保守工事に携わってきており、確かな技術とノウハウが要求される水力発電設備工事全般に対応可能で、国内各所の水力発電設備の新設・改修・保守・各種点検工事等をこれまでも多数請け負ってきており、公営水力等の水力発電設備のS&B案件にも、土木工事も含めて対応できることが弊社の強みである。
- 東京電力リニューアブルパワー株式会社様が運営されている世界最大級の純揚水式水力発電所「神流川発電所」におけるポンプ水車修理工事(工期:2025年3月～ 2025年11月)を受注し約8ヶ月に渡り従事してきた。



神流川発電所における夏期安全パトロールの様子



神流川発電所
(写真:東京電力リニューアブルパワー様提供)



【バイオマス】境港バイオマス発電所～マザープラントとして様々な事業の源に～

- 2022年10月の運転開始以来3年間安定運転を継続。総発電電力量463,987,500kWh(一般家庭4万世帯分×3年)
- その他、人材育成・技術伝承、技術開発、地域共生(環境教育)を合わせて、新たな事業を生み出す「マザープラント」として存在。これからも、その役割を果たせるよう安全安定運転に努める。



新たな事業の創生

自前でEPC+O&Mを一気通貫で行っている経験は、様々な事業に大いに活かされている



若手社員研修:
定期点検期間に、ポンプなど実際の部品を分解点検を実施
⇒各地のバイオマス発電所や各種プラント改修工事の現場に従事



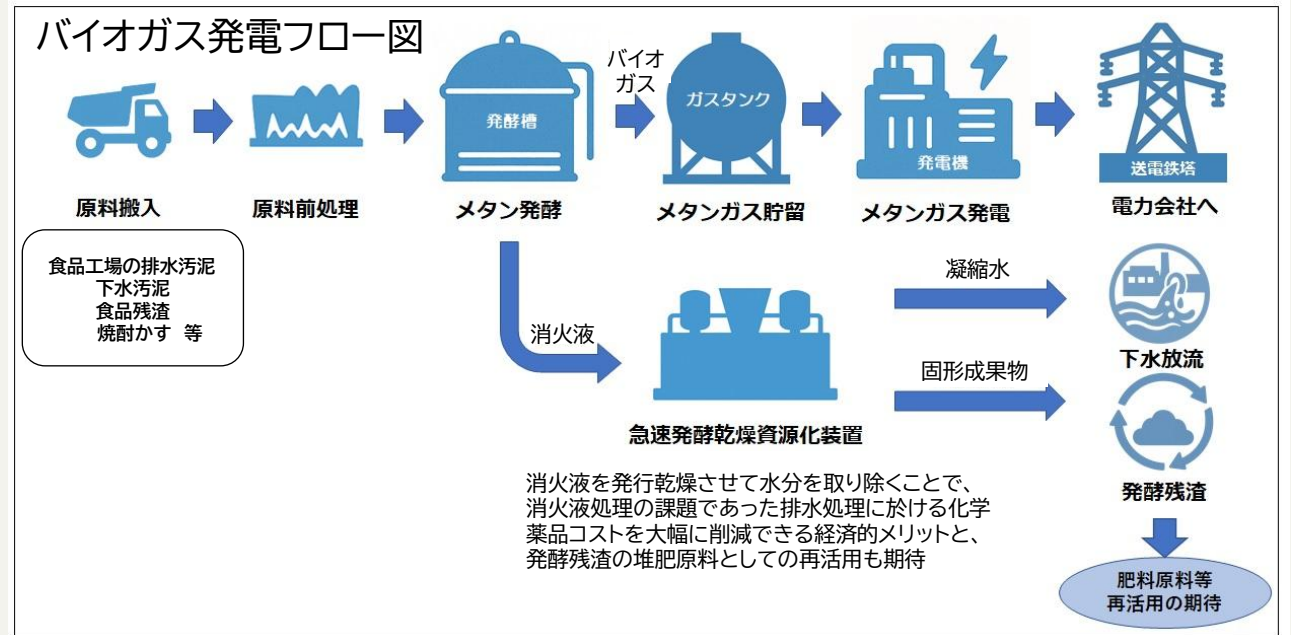
CO2回収実証試験:
パートナー企業(OOYOO)と共に、CO2回収実証試験を2025年7月から実施



環境教育の実施:
・地元高校のSDGsセミナーに参加
・バイオマス発電所のしくみと脱炭素社会実現に向けた取り組みを説明

【バイオガス】熊本でバイオガス発電事業を展開～2029年度運開予定、現地工事開始～

- 2025年6月に公表した本計画の現地の進入路の造成工事が始まり、2027年2月までに完了予定。バイオガス発電所工事の着工は、2027年3月の予定で2029年度の運転開始を目指す。
- 2025年7月には要員を増強、同年10月に現地事務所を設置した。
- 本プロジェクト等の実施に当たり資金調達を行う際の当社の信頼性評価として、第三者機関による格付「A-」を取得し、2025年7月に、グリーンボンドの発行によりバイオマス発電所の建設費用と合わせて50億円のグリーンボンドを発行し資金を調達した。
- 今後は、まずは本プロジェクトを早期に実施し、検証を行い、地域の課題解決につながるこの仕組みを、様々な方法による全国への展開を目指す。



進入路の造成工事



現地事務所の設置(2025年10月)

【技術力】溶接・検査センター～技術を磨いて千葉県大会優勝、全国大会に出場～

当社は、溶接技術の品質維持・技術開発・技術力の向上・人材育成による技術継承と作業安全を目的に「溶接・検査センター」を設置している。

【主な業務内容】

- 溶接・検査センターは社員で物づくりをする部署として、溶接業務に係るエキスパートを配置。
- 溶接自主検査工事(経済産業省の許可が必要な工事)対応や他部署の溶接に係る支援。
- 溶接・検査センター内設備には、配管溶接工場設備、各種の非破壊検査試験室等を備えており、各部門・部署が実施する実証試験などの支援業務を実施。
- 新入社員教育から各階層別研修などの教育・訓練を支援、等。

<トピックス>

溶接・検査センターに所属している加藤主任は、溶接の業務を行っており、2025年2月に行われた千葉県大会の「炭酸ガスアーク溶接」の部で優勝を果たし、10月5日に富山県で行われた第70回全国溶接技術競技会に千葉県代表として出場。(審査結果は来年1月予定)

今後も、社外の技術大会に挑戦するなど、自分たちの技術の向上に努める。



全国大会出場の加藤さん(中央ヘルメット)

【人材育成】洋上研修を開催 ～大島商船高等専門学校の協力を得て洋上研修を実施～

- 当社は、『人』を真ん中にした強くてしなやかなQ'dづくりを中期経営計画の基本方針として掲げ、人的資本強化を拡大すべく優れた人材の育成に取り組んできている。
- その一環として、8月28・29日の2日間、山口県周防大島町の大島商船高等専門学校の大島丸に乗船し、「Q'dチャレンジプログラム洋上研修」を開催した。
- 「Q'dチャレンジプログラム」は、将来の当社を牽引する組織のリーダーとして計画的に育成すべく、2023年度より実施されている若手社員を対象とした研修プログラムである。
- 研修参加者は、周防大島町の調査を事前に行って研修に臨み、周防大島町の産業活性化策や地域課題の解決策の検討をテーマに議論し、2日間の研修を終えた。
- 今回の洋上研修をきっかけに、周防大島町との交流を進めていく。



研修風景



集合写真



大島丸

【復興支援】福島県双葉郡川内村のワイナリーを支援 ～ブドウ収穫作業に参加～

- 当社は、10月30日に福島県双葉郡川内村の「かわうちワイナリー」にて、ワイン用ブドウの収穫作業を眞島社長と新入社員を含む当社社員で行った。
- 川内村は、2011年の福島第一原子力発電所の事故により全村避難を余儀なくされたが、1年後に帰村宣言をし復興に取り組み、川内村が良質のワイン用ブドウの生産に適していることから、復興を目指し2015年から栽培を開始した。
- 「かわうちワイナリー」は、川内村も株主として参加し2017年にかわうちワイン株式会社が設立。2021年より、川内村主導で整備された醸造施設でワイン製造を開始し、現在は生産も軌道に乗り、村内はもちろんのこと福島県内外での販売に至っている。
- このほか、当社は定期的に「福島復興支援物産展」を開催しており、川内村含め福島県の復興を引き続き支援をしていく。



かわうちワイナリー(醸造施設)



見事に熟したブドウ



収穫したブドウ



収穫作業(新入社員と眞島社長)

【ダイバーシティ】外国籍社員が活躍～ダイバーシティ&インクルージョン

- 当社は、グローバル事業の進展に伴い、外国籍社員の雇用を積極的に推進している。
- 人種や国籍にかかわらず、能力が最大限に発揮できるよう教育体制の拡充を図るなど支援している。
- 当社グループ社員の約1割が外国籍であり、日本や東南アジアで活躍している。



アサバヌエネシスエンジニアリングの日本オフィス



Tokyo Enesys(Thailand)の現地社員



運転監視中の外国籍社員(東京エネシス)

【ダイバーシティ】アスリート部に5名のパラアスリートが所属～ダイバーシティ&インクルージョン～



平井亮太選手(パラクライミング)



鬼谷慶子選手(円盤投げ)



金涌貴子選手(陸上車いす T34 800m)



熊谷昌飛選手(パラテニス)



アスリート部



郡司渚名選手(パラバスケットボール)

免責事項：

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいておりますが、当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、本資料は、投資家判断の参考となる情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。



暮らしのより確かな基盤をつくる

ENERGY×SYSTEM

地域へ、社会へ、そして未来へ